

ビールやノンアルコール飲料に含まれるホップ由来の苦み成分に、アルツハイマー病の予防効果があることを、飲料大手のキリンビールと東京大学、学習院大学の共同研究チームが明らかにした。

厚労省によると、認知症の人は国内に約 462 万人（2012 年調べ）おり、このうち約 7 割をアルツハイマー型が占めると推計されている。加齢に伴い、脳内にたんぱく質の「アミロイドβ」が蓄積することが原因とされる。

キリンビールや東京大の実験で、ホップ由来の苦み成分である「イソα酸」に、脳内の免疫細胞である「ミクログリア」を活性化させ、アミロイドβを除去する作用が見られた。イソα酸を含む餌を食べたマウスは、そうでないマウスに比べ、アミロイドβが約 5 割減少し、認知機能も向上したという。

東大の中山教授は「イソα酸は食品に含まれる成分のため、副作用の心配もない。ただ、アルコールの取り過ぎには注意が必要だ」と話しており、やはり飲み過ぎはよくないという。